

トッランナーがSDGsを語る！



持続可能なまちづくりへ

インタビュー全文 第2回 工藤昌明教育長

問. 教育長が考える持続可能なまちづくりについて必要なこととは何でしょうか？

答. 教育として何ができるかという、子供たちが伸びやかに育つまちということと、生涯を通じて学び習得して実践できるまち、つまり子どもも大人も共に成長していくことができるようなまちづくりが必要であると考えています。

問. SDGsには「誰一人取り残さない」という命題があります。教育においては特に子どもに当てはまることかと思いますが、この課題についてどのようにアプローチしていくべきでしょうか？

答. 学校教育という視点では、全ての子ども達に対する学力保障が挙げられます。そのためにそれぞれの学校では、先生方が各自授業の工夫を行ったり、あるいは特別支援教育の充実であったりと、最大限の努力を傾注して取り組んでいます。それらを通じて、子ども達一人ひとりが喜んで学校に来られるような環境づくりをベースにする必要があると考えています。

それをベースとして、授業ごとの支援であったり、例えば障がいをお持ちのお子さんに対しては、それにふさわしい特別支援の体制を確立して充実したものにしていくなど、それが誰一人取り残さないということに繋がっていくと考えます。

問. 初めの問いに対して、子どもも大人も成長できるまちというキーワードが挙げられました、それを実施していくために必要なことはどのような事が必要か？

答. 市全体で言えば協働のまちづくりと言えます。そして教育という視点で見れば、コミュニティスクール（以下CS）の推進が教育部局の中心施策であり、SDGsに繋がっているものであると考えます。

これからは今以上に少子高齢化が進み、行政も人員・予算などの面においても色々な制限が出てくる時代になるかと思っています。その中で、地域づくり、ま

ちづくりと、学校づくりが一体になって進めていくことが出来れば、その教育効果は計り知れない可能性があると思います。国の方ではCSは努力義務と言っているのですが、これから全ての学校がCS化していくことになると思いますが、それは制度としてのCSであって、問題はそこに実質が伴うかどうかが重要です。

本市の場合は、市民協働のまちづくりが進んでますので、その中でCSを実施するということは、車の両輪のような関係であって、地域づくりと学校づくりが相乗効果をもって大きな教育効果が生まれることを期待しています。

問. CSを推進するうえで地域の方々の力がとても大事なことだということがわかりましたが、東松島市の地域の力というのは教育長にはどのように映りますか？

答. CSの話を地域の皆さんにしたときには、子ども達のためにあんなことや、このようなことをやりたいなど、非常に多くの意見をいただくなど、非常に熱心でした。その時に東松島市の中にはまだまだ我々の知らない素晴らしい人材がたくさんいらっしゃることに気づきました。

そのような方々と連携しCSを進めていけば、素晴らしいものができると思います。その様な環境は、子ども達が育つだけではなく、皆が育ちます。親は親で成長しますし、地域は地域で成長・成熟します。

東松島市は教育を通じて、みんなで成長・成熟できる力があるまちであると言えるでしょう。

問. 市では復興の森による環境教育などにも取り組んでいますが、この取組とSDGsの連携によりどのような可能性が考えられますか。

答. 復興の森は宮野森小学校に隣接しており、現在は各科目で復興の森を活用した授業が行われています。自然の中で学ぶことは学問への興味が湧く契機となり、それが本当の意味での学力向上につながるはずです。宮野森小学校だけでなく、今後は市内の全学校が復興の森を上手に活用できるようにしていきたいと思っています。

CSと森の学校ビジョンは人口ビジョンの大きな柱になっています。いずれもSDGs深くかかわっているものですので継続して進めることが重要でしょう。

問. 上記のような取組を進め地域に子供たちが関わることで愛郷心が育まれると思います。そういった形になると子供たちが大人になっても最終的には故郷で活躍してくれることも考えられますね。

答. 実際に自分のまちを支えてくれる人づくりを進めている地域もあります。これは、一つの大事な視点だと思いますが、私は地域に引き留めるというよりもグローバルな視点を持った人に成長してもらいたいと思っています。その中で外に出ても故郷を忘れないような人になってもらいたい。

そういう人に成長していけば、外から私も東松島市に住みたいという人も多く来てくれると思っています。

